

# 主事先生と小鳥

## —誠実に行動しようとした主事先生の話—

- 1 学年 第6学年〔中期〕
- 2 主題名 誠実な行動〔1－(4)〕
- 3 ねらい  
 仕事中に小鳥の巣のある枝を切り落としてしまった主事先生の気持ちを考えることを通して、最後まで誠意をもって行動しようとする心情を育てる。
- 4 資料名 「主事先生と小鳥」
- 5 展開

	学習活動と主な発問	児童の反応	指導上の留意点
導 入	1 主事先生の仕事について発表する。 ○ 主事先生はどんな仕事をされているか知っていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校のいろいろなものを直す。</li> <li>・ 縄跳び台を作る。</li> <li>・ 花壇の世話をする。</li> </ul>	○ 実際の仕事の写真を提示して主事の仕事を理解させ、資料に興味をもたせる。
展 開	2 資料「主事先生と小鳥」を読んで話し合う。 ○ はみ出した枝を切り落としたとき、主事先生はどんな気持ちだったでしょう。 ○ 切り落とした枝の中に小鳥の巣を発見した主事先生は、どんな気持ちだったでしょう。 ○ 今切った木を見上げながら、主事先生はどんなことを考えたでしょう。 ◎ 主事先生はどんな気持ちで、えさをやり続けているのでしょう。 3 自分達の生活を振り返って話し合う。 ○ 係や仕事など、最後までやりとげたことがありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ うまくいった。</li> <li>・ もう危なくないぞ。</li> <li>・ これでだいじょうぶ。</li> <li>・ しまった。気が付かなかった。</li> <li>・ よく見て切ればよかった。</li> <li>・ 自分のせいかわいいようなことをしたな。</li> <li>・ このままにはしておけない。</li> <li>・ 木にもどして大丈夫だろうか。</li> <li>・ 連れて帰って大きくなるまで育てよう。</li> <li>・ すまないことをした。</li> <li>・ 早く大きくなって自分で飛べるようになって。</li> <li>・ 最後まで世話をするぞ。</li> <li>・ 運動会の応援係としてチームの応援グッズを作ってがんばった。優勝したのでうれしかった。</li> <li>・ 大掃除のとき、トイレの便器をぴかぴかになるまでみがいた。きれいになって気持ちよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分の仕事を真面目にやろうとしている主事先生の姿を捉えさせる。</li> <li>○ よく見て仕事すればよかったと後悔している主事先生の気持ちを感じ取らせる。</li> <li>○ 小鳥のことを心配するだけでなく、自分のせいだと良心の呵責を感じている主事先生の気持ちについて考えさせる。</li> <li>○ ずっと小鳥を見守り、元気よく飛び立つまで世話をしようとしている主事先生の姿を捉えさせる。</li> <li>○ 誠実に行動することの素晴らしさや難しさについて共感させる。</li> </ul>
終 末	4 教師の話聞く。 「陰日なたなく」という言葉について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人が見えていても、いなくても変わらず誠意を持って行動できるって素晴らしい。</li> </ul>	○ 誰が見えていてもいなくても自分の心がすっきりする気持ちに共感させる。

## 6 授業の概要

### (1) 主題について

明るい気持ちで生活することは、生きていく上で基本となる心情である。それは、誠実に真心をもって行動することで得られるものである。また、このことによって、人からの信頼を得ることにもなるであろう。周りのことが気になり始めるこの時期だからこそ、いつどんなときも、誰に対しても、ごまかしたり逃げたりせずに明るい心で精一杯生きようとする気持ちを育てたい。人が見ていなくても、誠実に行動することのすがすがしさや素晴らしさに気付かせ、誠実に行動するよさを実感させたい。

### (2) 自作資料活用のポイント

ア 感動を大切に、温かい気持ちで

主事先生の誠実な姿に触れることで、誠実に行動することの素晴らしさや人間性に感動し、自分も「あのように行動したい。」という気持ちを引き出すようにしたい。

イ キャリア教育の視点で

自分の仕事を誠実にやり遂げることの尊さ等、キャリア教育の視点ももたせたい。

ウ 自然愛護に流れないように

小鳥の世話をするという行動が軸になっており、それを支えたのは主事先生の小鳥に対する愛情も確かにあるが、自分のせいでこうなったと感じて行動している主事先生の誠実さに気付かせることに重点を置きたい。

### (3) 指導過程の工夫

ア 導入の工夫

導入で、主事先生の仕事について確認し、資料への興味付けを行いたい。また実際の写真などを提示すると効果的である。

イ 繰り返し発問の工夫

3番目の発問の後に、「別の木の枝に返しておいてもいいのでは。」等の繰り返し発問を行うことにより、自分の都合ではなく小鳥に対する思いやりを優先したことをおさえたい。また、中心発問の後にも「十分世話をしたのだからもう逃がしてもいいのではないか。それに誰も見ていないのだから……。」等の繰り返し発問を行うことにより、自分のやったことに最後まで責任を取ろうとしている主事先生の心情にせまらせたい。

ウ 自分の体験の活用

自分が今まで任された仕事や係などを想起させ、誠実にやり遂げた満足感などを引き出すことで、誠実さへの価値付けを図りたい。

(白岳小学校 揚野恭子)